

# BLUE THERMAL 2009 INO.1

新格納庫3F写真判定室  
Office of BLUE THERMAL 2009  
今夜の担当:

大会写真公開中: Blue Thermal Photography  
<http://blog.livedoor.jp/glidingphotos/>

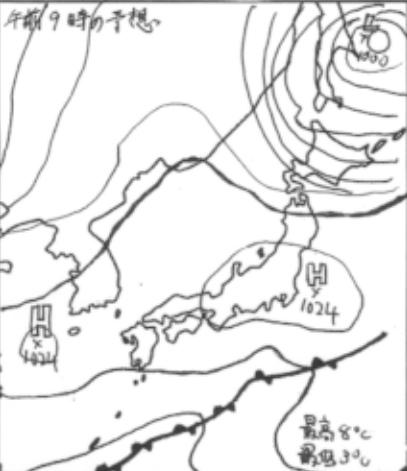
宮本 研一郎(関東学院)  
上河 聡(倫館3回)

## ドカチン開幕



### 明日の天気

午前9時の予想



明日は朝のうちは関東地方は高気圧に覆われ、13時から午後にかけて高気圧が東進し、近畿に前線を伴った低気圧の上により、また南風が吹入し、天気は下り曇りとなる。(宮本)

第49回全日本学生グライダー競技選手権大会は今日3月7日開幕。昨日1日降り続いた雨は6日に予定されていたフェックフライトを中止に追いやるだけでなく、今大会を滑走路の水たまりをスポンジで吸い取り作業「ドカチン」からの幕開けにするという結果となった。朝から続いた強い北風の影響で、熊谷めけきグライダーフェスタ2009内で予定されていた午前中のフライトは中止となり、ミニモアは宿舍前展示、体験搭乗も午後からの実施となった。選手宣誓は関大23の菅原選手。「間をとた」と彼が誇り宣言し、強烈に記憶に残るものとなった。

### 選手による選手紹介

13時30分からは学生の手による選手紹介が行われた。昨年は悪天候により実施できません。2年ぶりの開催となった今回。青山・原君と中央・百織君の司会で進められ、競技への意気込みを語り選手も、ウケ狙い全開の選手も、それぞれのカラーで開会を盛り上げた。なお、東海6の近藤空選手(2)は現在彼女募集中である。(上河)

あのCMで有名なRed Bullが、本当に翼を授けに来たよか、今回に4子巻によいフライト参加の選手にRed Bullが無料配布され、学生と来場者の喉をうるおした。Red BullはRed Bull エアレスを主に使っていたり、大戦期の単脚機をリストアップしたりするなど、飛行本誌に聞ける貴重な情報が満載されている。4子のグライダーは重さに比べて5は翼を手元でくれるのは間違いな1本33。(宮本)



選手は私1人だけが8年ぶりにここに来られたのは部員全員のおかげであらう。と、名演説を残した青山23・谷選手。こうして後輩のモチベーションを上げてくれる先輩は、1つの理想だろう。



### プロジェクトD 同志社大学体育会航空部

※中島みゆき「地上の星」をBGMにしてお楽しみ下さい。  
同志社航空部の新機体導入が遅れていた。同志社6・重田選手は、別の機体機ハコステアアを目前で絶たれ、心にぽっかりと穴があいた。目の前にはASK23と同程度の性能をもつK6E。「自分はこの格納庫に眠って、乗りたいたいと思うし、重田選手の中で、同志社6」構想はこれ以上決部の希望を託された川又は迷った。羽は破れ、ホコリを振り、格納庫に眠り続ける「ハンカ・クラン」と呼ぶK6E。再び絶望かと思いきや、有は少なかった。先の見えない整備、学業との両立。2回生の川又にはあまりに大変な仕事だった。しかし、夢は航空整備士。進任者は他にいなかった。教時間後、川又は、重田選手と教官に意気込みを伝えた。「ういっせ指書下す、教官御座り、深々と頭を下げ、08整備士に電話をかけることからスタート。大学を問わず深々と、5月には日処が立った。計器はもうらんで代物ではなく、検査落ちの連続。「最も苦労しました」と語る、心との交渉と調整には、3ヶ月を要した。同時期に参加した板倉の整備士講習会。講師の整備士にも相談に乗ってもらった。そして迎えた3月24日、木曾川滑空場。部のミスで4台のバック教官のヒヤッの判断で、大野滑空場のProccasを陸送し、アゴを移植。これで埋めかけた同志社6は空に舞った。「お返しを！」川又は後輩に叫んだ。プロジェクトDをこれに語った後、川又はこう付け加えた。「多くの人の支いがあってこそできた。でも、大変だったことは聞かれても、正直思っています。そして、同志社6は格納庫だけでなく、希望を託された同志社2回の川又と(右)と朝日さん(左)。(上河)



当時をふり振り返り、笑顔で取材に答えてくれた同志社2回の川又さん(右)と朝日さん(左)。(上河)